

在宅看護学実習	3年・前期	2単位	教授 石原 美由紀 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310883

1. 授業のねらい・概要

本科目は、在宅療養者とその家族の生活や訪問看護の実際に参加することで、地域で生活しながら療養する対象とその家族に対する具体的な看護実践方法を学ぶ。さらに、介護付き高齢者住宅や介護老人福祉施設における在宅支援に参加し、介護福祉職の援助方法を学び、在宅療養に関わる保健・医療・福祉の地域ケアシステムにおける多機関多職種との連携・協働のあり方について理解する。

2. 学修の到達目標

1. 訪問看護活動を通して、在宅療養者とその家族への理解を深めると共に、生活の場に応じた看護技術を理解することができる。
2. 地域ケアシステム、関連制度、保健・医療・福祉について理解を深め、関連機関・他職職種との連携・協力の実践や必要性が理解できる。
3. 継続ケアの視点から在宅、施設、医療機関における看護師の役割や連携方法を学ぶ。

3. 授業の進め方

訪問看護ステーション、通所介護サービスで実習を行なう。

4. 授業計画

1. 実習期間：3年前期，2週間
2. 実習施設：群馬県内の訪問看護ステーション・通所介護サービス事業所
3. 訪問看護師の同行訪問実習
在宅療養における事例学習
通所介護サービスの参加実習
グループワークによる在宅療養者の資源マップづくり
詳細は実習要項参照

5. 成績評価の方法・基準

実習記録・実習態度などの平常点 80%，試験 20%を基に総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

正野逸子・本田彰子（2018）：看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 メヂカルフレンド社
 臺有桂・石田千絵・山下瑠理子（2018）：ナースィング・グラフィカ 在宅看護論 ②地域療養を支えるケア メディカ出版
 押川真喜子（2018）：写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

事前学習として、在宅ケアに関する関連制度、社会資源、在宅看護の対象・疾患・特徴、訪問看護ステーションの機能・役割、日常生活援助技術・基本技術について実習開始までにノート等にまとめる。実習前に基礎知識評価試験を行ない、実習中の学びを実習記録に記述し、実習終了後に実習全体のまなびについてレポートにまとめる。

8. 受講上の留意事項

訪問看護の実際について学ぶことのできる貴重な機会である。短期間であるため事前学習を十分に行ない、プライバシー保護、人権尊重など倫理的課題について考えて実習して下さい。
 本科目の履修にあたっては、在宅看護学概論、在宅生活支援技術が先修科目となる。

9. 課題に対するフィードバックフィードバック方法

提出された事前学習は教員が内容をチェックして返却する。内容が不備なものは再提出を求める。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。